

潮来市はこの辺

ネットで秋厚労ニュース
http://www.shukouro.net/

ID shukouro
パスワード 0188643341

メール info@shukouro.net

NO1927号

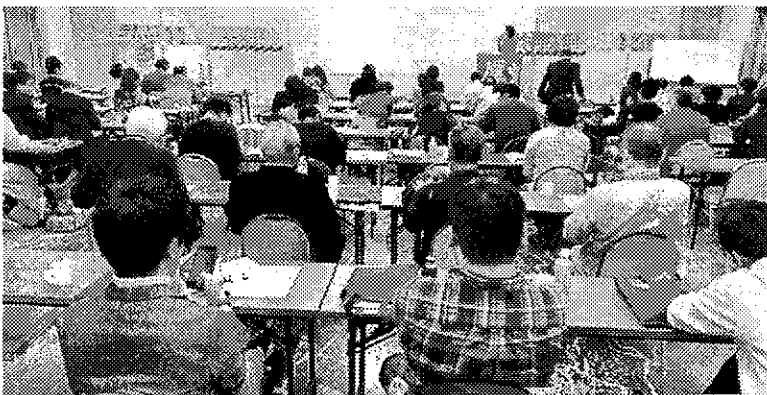
2019年11月27日
秋田県厚生連労働組合
秋田市山王5-4-2
TEL 018(864)3341
FAX 018(864)3349

秋厚労ニュース

地域とつながる

第36回全厚労 医療研究集会

去る11月15日（金）～17日（日）、茨城県潮来市にて「第36回全厚労医療研究集会」が開催され、秋厚労7人を含む116人が参加しました。



厚生連が果たすべき役割を考へる

集会のメインテーマは「住民とともに協同組合医療運動を復興させよう」。目的は①全国の仲間と悩みを共有し、つながること②日々の仕事の「社会的な意義」を確認すること③地域の一員として厚生連病院が果たすべき役割を再認識すること、です。

なめがた

住民との運動で存続

今年2月、茨城県厚生連の「なめがた地域医療セン

住民がお金を出して建てた病院

茨城県潮来市は、渦中の「なめがた」は、経営者方針を受けた大学の医師引き上げで、突然、病棟廃止の危機に。茨厚労と住民の運動により、「病院として存続する」旨の理事長発言を引き出しました。

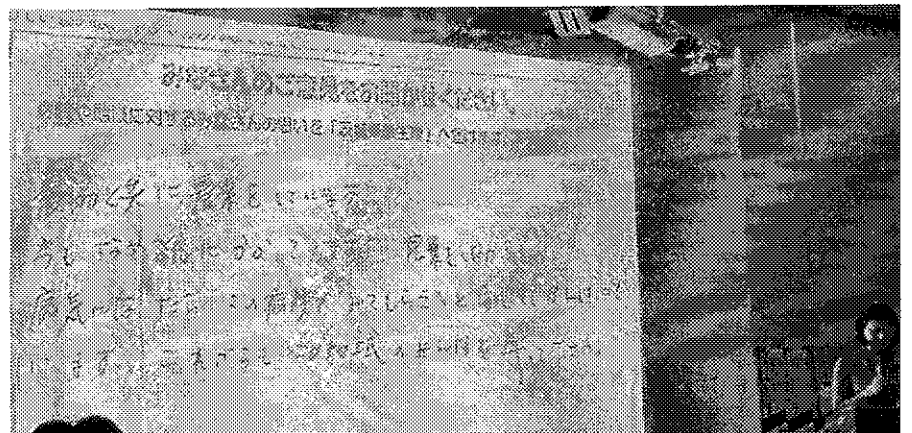


茨厚労が「ポイント学習」としてなめがたの運動を報告。「全国の厚生連は、農家の人がお金を出しあつて建て、地域の税金で援助され、職員1人1人の頑張りで支えられている病院。経営の都合で勝手になくして良い病院ではない」と強調しました。中央執行委員長の美野輪さんは「なめがたのようなことは、全国の公的病院で起こりうる」と話しました。

厚生連病院は県内の医療を支えています。山口教授は「1つの病院で採算が悪くても、グループ内で吸収する必要がある」と説明。安易な縮小はむしろ単価の低下につながり、経営悪化を引き起こす可能性も。さらに、経営が悪いからと労働条件を引き下げれば、有能な職員が集まりにくくなり、医療の質の低下にもつながるとも話します。

住民の声を考へないこと

全体で評価する必要がある」としました。



「これからも地域のみみなを守って」など住民から茨厚労に届いた声を紹介

地域社会・住民への 貢献を評価すべき

明治大学大学院の山口不二夫教授が、茨城県厚生連の事例をもとに、「経営者は地域医療を守るため

そのうえで、「会計データだけでなく、地域社会・住民への貢献なども含めて、

最終日、参加者からは「病院の経営を考へるとき、地域住民のことも考へないと。医療労働者と地域のつながりは、私たちがつくってきたい」「病院給食の地産地消を推進したい。患者さんの声も生産者に伝えたい」「全国の人に会えて良かった」などの感想が出されました。